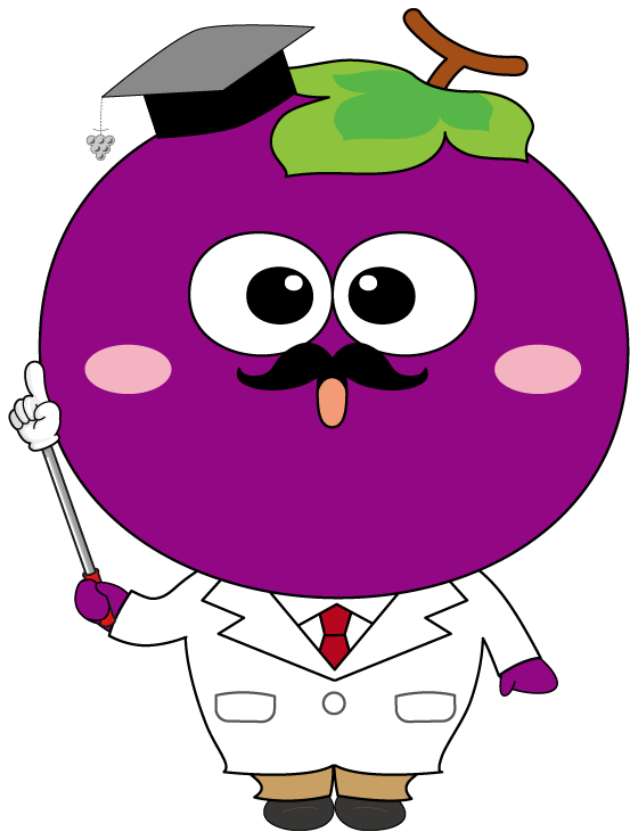




羽曳野市の財政状況 〈令和7年度決算〉

羽曳野市総務部財政管理課

羽曳野市の財政の状況を、つぶたんと一緒に見ていきましょう！



～ 目 次 ～



Q 1.	そもそも財政ってナニ？	1
Q 2.	羽曳野市のお財布にはどんなものがあるの？	2
Q 3.	一般会計の決算の概要を教えて！	4
Q 4.	令和 7 年度の歳入の特徴を教えて！	6
Q 5.	令和 7 年度の歳出の特徴を教えて！	9
Q 6.	令和 7 年度に行った主なお仕事を教えて！	14
Q 7.	羽曳野市にはどれくらい貯金があるの？	15
Q 8.	羽曳野市にはどれくらい借金があるの？	16
Q 9.	羽曳野市の財政状況は大丈夫なの？	17



よろしくね！

羽曳野市の財政状況をできるだけ
わかりやすく説明するね。





Q 1. そもそも「財政」ってナニ？



市役所では、市民の皆さんから税金をいただき、子育て、福祉、教育など、市民の皆さんの生活にかかわる色々な仕事をしています。
市役所では、そういった仕事を効率的に行うために、様々な「お金のやりくり」をしています。
つぶたんもお小遣いをもらったら、それをどうやって使うかを考えるよね。
市役所では、その「お金のやりくり」のことを「財政」と呼んでいます。

《もう少し詳しく》

予算とは？

市役所では、市民にかかわる色々な仕事をしています。しかし、市役所に入ってくる収入には限りがありますので、その収入の見込みの範囲内で、やらなければならないことの優先順位をつけ、仕事をしています。

この収入と支出の計画のことを「**予算**」と呼んでいます。市役所では、毎年度「予算」を作成し、これに基づいて様々な仕事をしています。

また、異なる仕事ごとにお財布（＝会計）を分けて、その仕事ごとの予算を作成する場合があります。

決算とは？

市役所では、市民の皆さんから税金などを集め、様々な市民サービス等を行っています。そして、それらの収入がいくら集まり、市民サービス等にいくら使われたのかを、毎年度取りまとめしています。

この収入と支出の取りまとめ結果のことを「**決算**」と呼んでいます。決算では、市役所がその年度にお金をどう使ったか確認できます。また、決算の数値を用いて市役所の財政状況がどうなっているかをチェックすることができます。

「決算」は、言わばその年度の市役所の成績表です。

Q 2. 羽曳野市のお財布にはどんなものがあるの？



市役所のお財布には、大きく分けて「一般会計」、「特別会計」、「公営企業会計」の3つの種類があります。

《もう少し詳しく》

一般会計

R7年度にかかったお金
約521.3億円

市の基本的なお仕事
(福祉、教育、ごみ処理、保健、道路など)
をするためのお財布。
皆さんからいただく
税金などが主な財源。

特別会計

R7年度にかかったお金
約268.9億円

国民健康保険など、特
定の目的の為のお財布。
保険料等の収入により
医療費等の支出をまか
なう。一般会計と分け
ることで経理を明確に
している。

公営企業会計

R7年度にかかったお金
約52.1億円

水道、下水道など民間
企業に似たお仕事を
行うためのお財布。料
金等の収益により費用
をまかなう。一般会計
と分けることで経理を
明確にしている。

令和7年度では
市役所全体で

約842.3億円

のお金がかかりました。



次のページで、それぞ
れのお財布の収支を見
てみましょう。

羽曳野市のお財布ごとの収支（令和7年度決算）

収支（収入－支出）がマイナスになることを「赤字」と言うよ。

種 類	お 財 布 の 名 前 (会 計 名)	収 入 (収 益)	一 般 会 計 金 繰 入	支 出 (費 用)	収 支	説 明
一 般	一般会計	522.4億円	－	521.3億円	1.1億円	市役所の基本的なお仕事をするためのお財布
特 別	国民健康保険特別会計	116.2億円	12.5億円	116.2億円	0.1億円	自営業者の方などが病気やけがをしたときの医療費を負担するためのお財布
	介護保険特別会計	128.1億円	19.3億円	124.4億円	3.7億円	高齢者の方が介護が必要になったときに受けるサービス等の費用を負担するためのお財布
	後期高齢者医療特別会計	24.8億円	4.7億円	24.0億円	0.8億円	75歳以上の方などが病気やけがをしたときの医療費を負担するためのお財布
	財産区特別会計	16.5億円	－	0.4億円	16.1億円	昔から地域の皆さんで使っていた、ため池や山林などを維持管理するためのお財布
	土地取得特別会計	3.8億円	2.3億円	3.8億円	－	道路などの工事をするために必要な土地を購入するためのお財布
公営企業	と畜場特別会計	2.2億円	1.0億円	2.2億円	－	皆さんが食べる牛肉等を加工するための施設の維持管理を行うためのお財布
	水道事業会計	22.1億円	1.8億円	20.3億円	1.8億円	皆さんが使う水を供給する水道施設の維持管理を行うためのお財布
	下水道事業会計	29.7億円	5.7億円	29.6億円	0.1億円	皆さんが使用した水を処理場に送り、適切に処理するためのお財布

※四捨五入の関係で「収入－支出」と「収支」が一致しない場合があります。

一般会計繰入金是一般会計が負担すべきお金のほか、他の会計が赤字になりそうなときに一般会計から仕送るお金のことだよ。

どのお財布も収支に赤字が無くて安心。でも、一般会計繰入金がなかったら赤字になるお財布もあるみたい。もし一般会計が赤字になったら、大変だね。





Q 3. 一般会計の決算の概要を教えて！

令和7年度一般会計決算の概要

- ・歳入（収入）：522億3,693万円（前年度比 60億7,485万円）
- ・歳出（支出）：521億3,015万円（前年度比 61億7,940万円）

⇒形式収支（歳入－歳出）：1億678万円

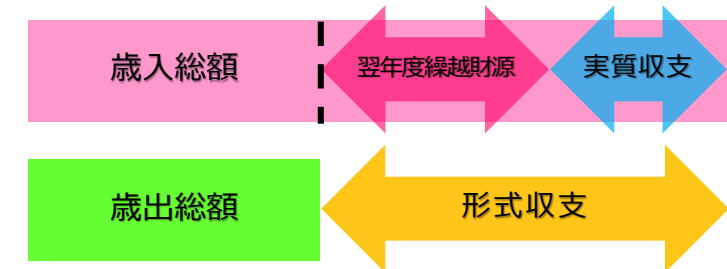
このうち翌年度に繰り越す仕事（令和7年度に終わらなかった仕事）に使うためのお金「2,683万円」を差し引いた金額が、

⇒実質収支（形式収支－翌年度繰越財源）：7,995万円

ただし、財源不足を補うため、財政調整基金（市役所の貯金）から取り崩しを行った。（令和7年度取り崩し額：3.5億円）

➡ 貯金を取り崩しての黒字となった。

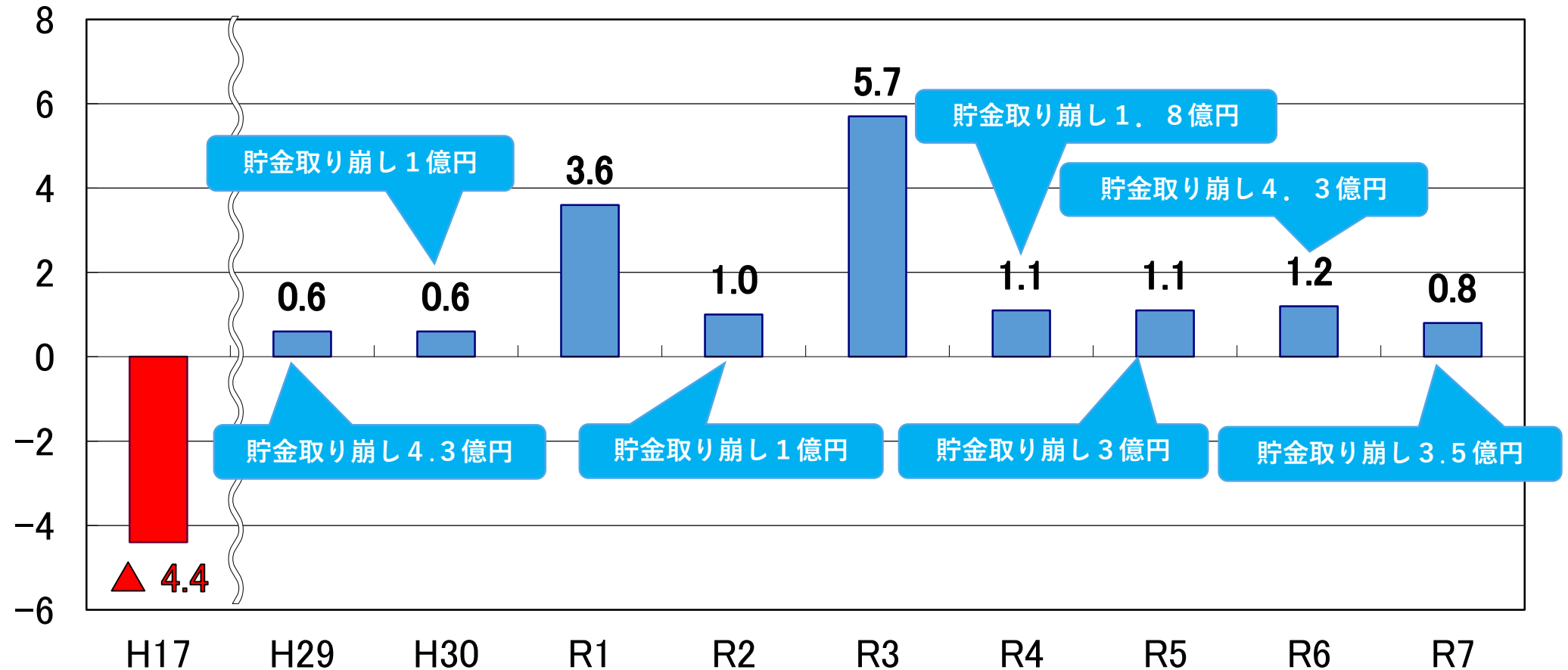
★実質収支のイメージ図(収支が黒字の場合)



次のページでは、これまでの一般会計の収支の推移を見よう。

一般会計の実質収支の推移

(億円)



一般会計の収支は年によってすごくデコボコがあるね。黒字のときはしっかり貯金をしないとね。

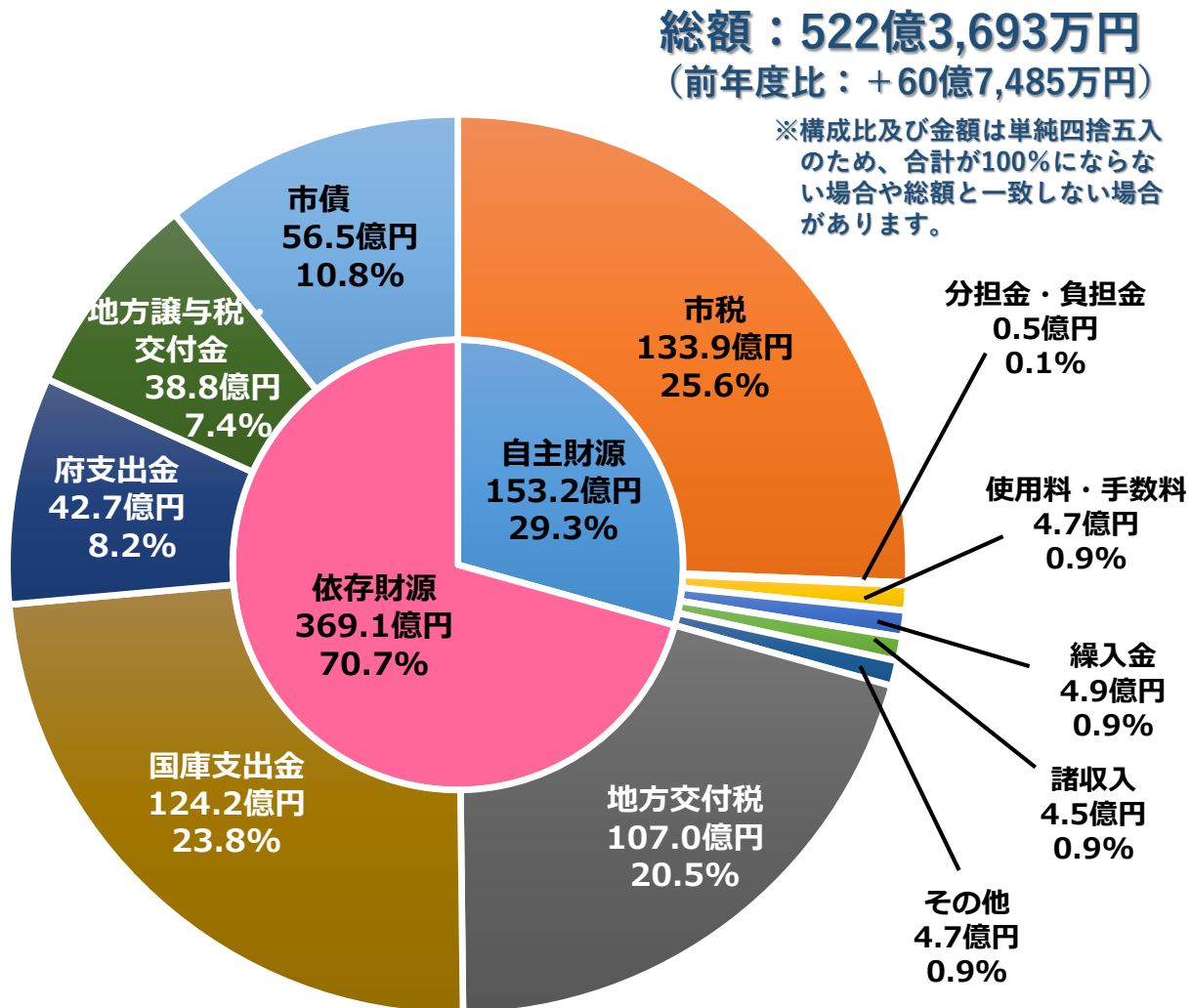


羽曳野市の収支にデコボコがあるのは、市の総収入の中で、国や大阪府からもらえるお金の割合が高く、年によってもらえるお金が多かったり少なかったりして収入が安定しないことが理由のひとつとして考えられます。令和7年度がどうだったかは、次のページで見てみましょう。



Q 4. 令和7年度の歳入の特徴を教えてください！

一般会計歳入内訳（令和7年度決算）



令和7年度歳入決算の特徴

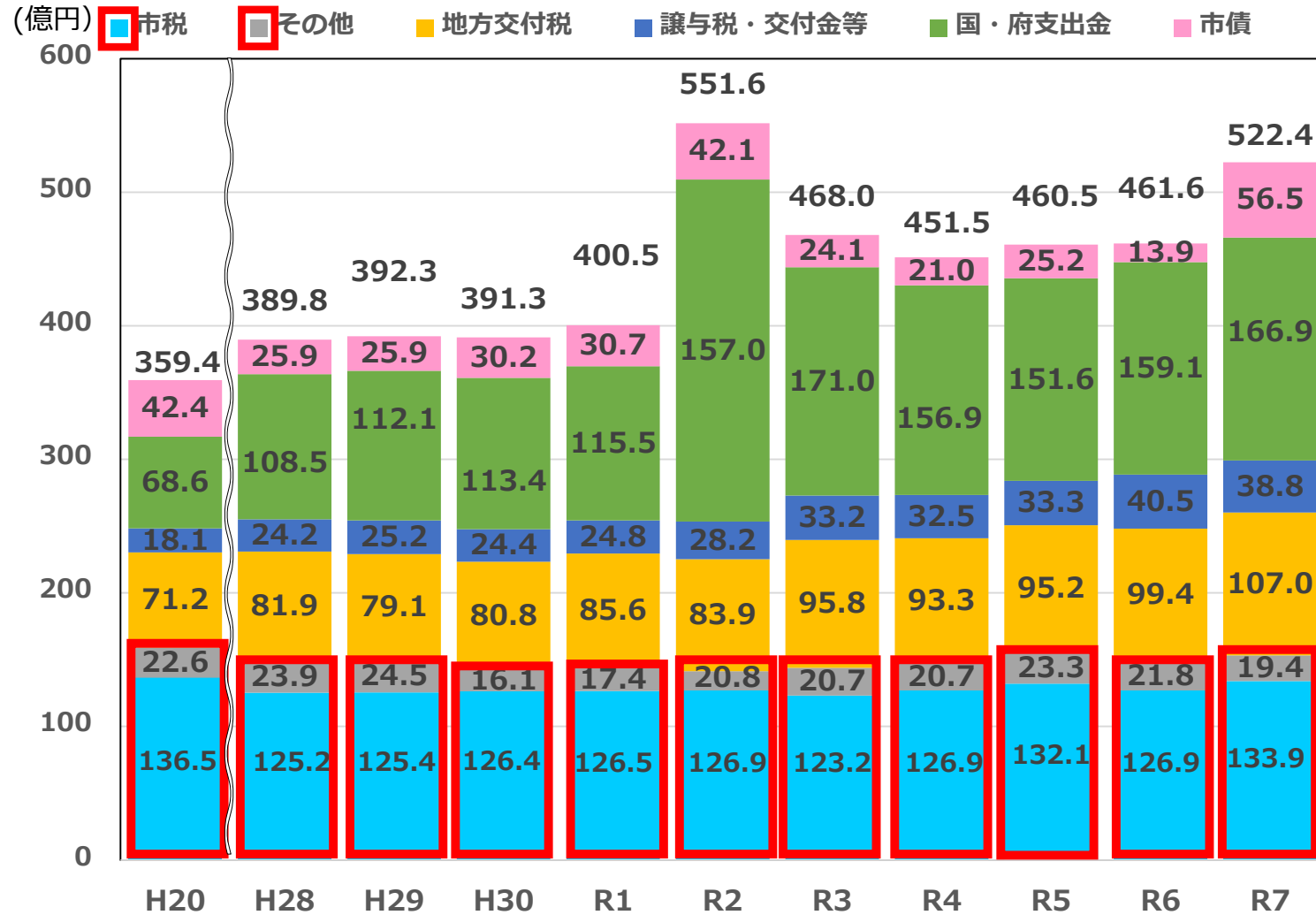
- ・ 令和7年度の歳入総額は、522億3,693万円となり、前年度と比較すると、60億7,485万円の増加となった。
- ・ これは、繰入金が31.9%、地方譲与税・交付金が4.2%減少しているものの、市債が306.2%、府支出金が13.2%増加したことなどが要因となっている。市債増加は学校給食センター等整備事業の増加が主な要因となっている。
- ・ 依存財源である市債等が増加したことや、自主財源である繰入金等が減少したことを受けて、一般会計の自主財源割合は29.3%となり、前年度に比べ2.9%低下した。



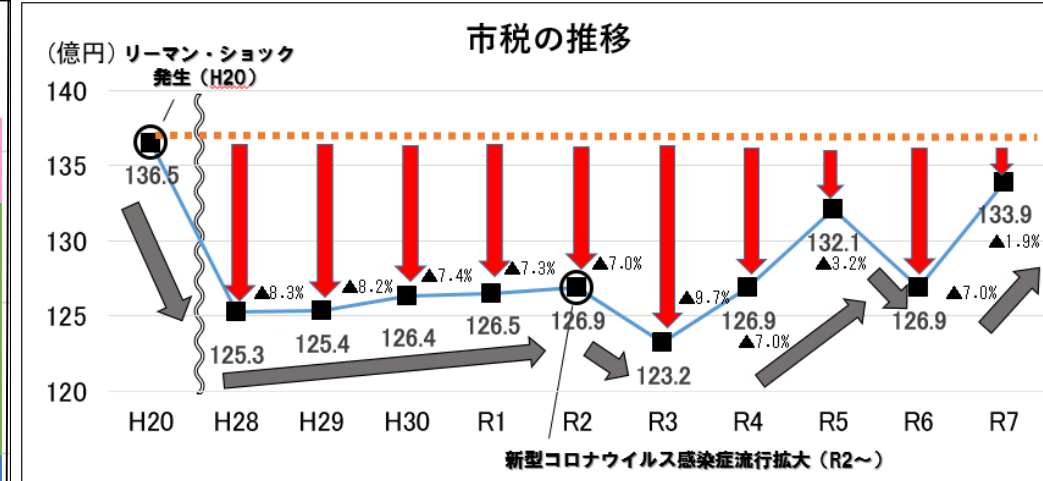
「自主財源」は市役所が自主的に集められるお金。
 「依存財源」は国や大阪府からもらうお金などで、自主的には集められないもの。
 「自主財源」が多いほど、自主的で安定的な仕事ができる。だから、「自主財源」をもっと増やせるようにしないとね。

一般会計の歳入の推移

□ は、自主財源



※端数処理の関係で合計等と一致しない場合があります。



平成20年度と比べて令和7年度の市税収入は約2.6億円減少したのに対し、地方交付税は約35.8億円増加しており、市財政の国への依存度は高まっています。

市税収入は新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度はリーマン・ショック以来最大の減収となりました。令和6年度は定額減税により減収となったものの令和7年度に再び増収となりました。ただし、今後も予断を許さない状況となっています。



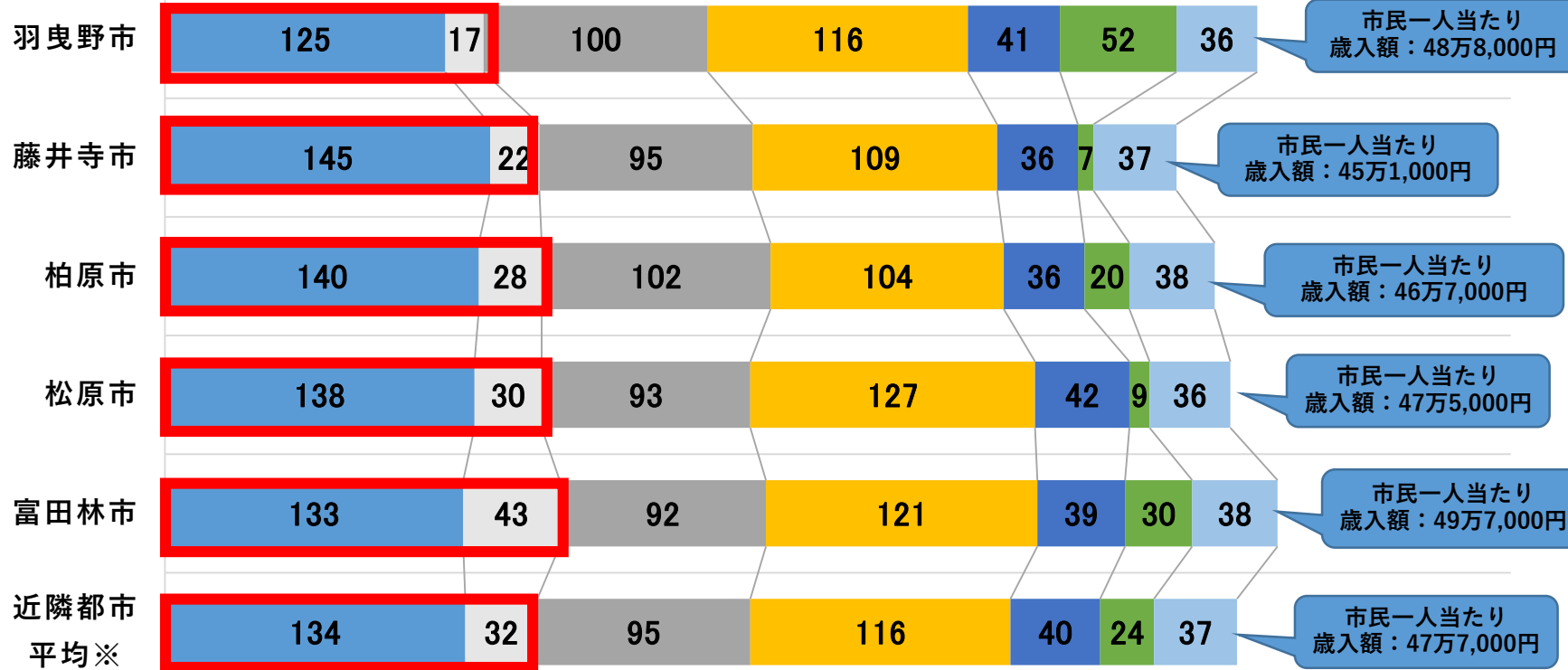
市民一人当たりの歳入 隣接市・近隣都市平均との比較について

市民一人当たり歳入比較表（令和7年度決算・普通会計*／政令市除く）

□ は、自主財源

単位：千円

■ 市税 ■ その他自主財源 ■ 地方交付税 ■ 国庫支出金 ■ 府支出金 ■ 市債 ■ その他依存財源



※端数処理の関係で合計等と一致しない場合があります。

※近隣都市平均は隣接市に河内長野市と大阪狭山市を加えた7市の加重平均です。



普通会計とは？

「普通会計」とは、市町村ごとに会計の範囲や状況が異なることから、他の市町村との財政比較を行いやすくするため、一般会計とそれに近い性質の特別会計とを足し合わせるほか、各会計で重複するお金や、借金の借換に関する収入等を差し引いて算出します。羽曳野市では、「一般会計」と「土地取得特別会計」を合わせたものを「普通会計」としています。

羽曳野市は周りの市よりも市民一人当たりの自主財源の額が低いから歳入を増やさないといけないね。
近年では手数料と使用料の見直しをして歳入を増やしたよ。

市民一人当たりの自主財源の額

近隣都市平均：16.5万円
羽曳野市：14.3万円
(近隣都市7市中7位)

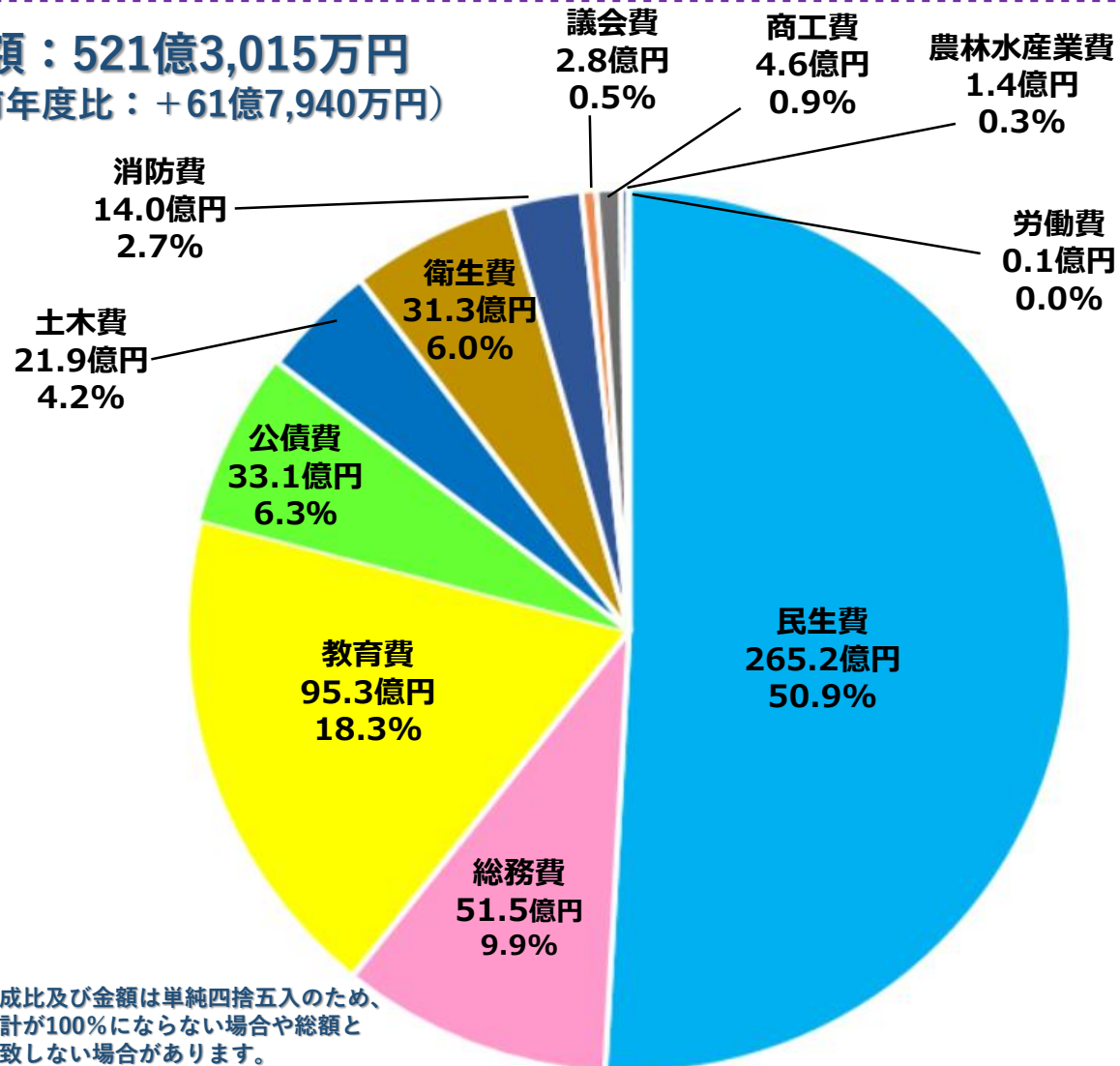




Q 5. 令和7年度の歳出の特徴を教えて！

一般会計歳出（目的別）内訳（令和7年度決算）

総額：521億3,015万円
（前年度比：+61億7,940万円）



※構成比及び金額は単純四捨五入のため、合計が100%にならない場合や総額と一致しない場合があります。

歳出決算には、歳出を行政目的別に区分した「目的別」と、性質別に区分した「性質別」の2つの見方があります。

家族の買い物で例えると、次のようになります。

（例）子どものために洋服を買う

- ⇒ ① 目的別：子どものために（民生費に計上）
② 性質別：洋服を買う（物件費（11ページ参照）に計上）

令和7年度歳出決算（目的別）の特徴

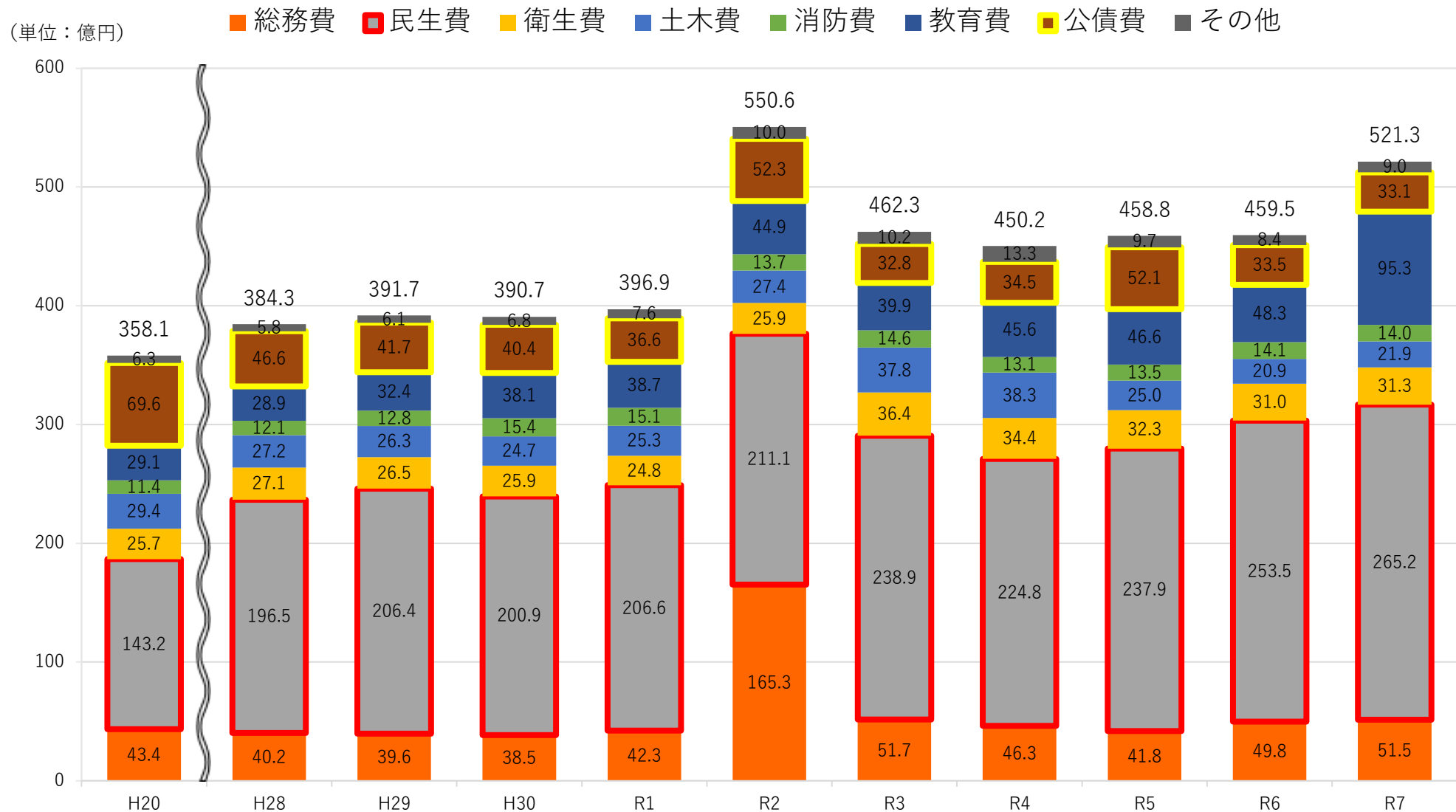
- ・ 令和7年度の歳出総額は、521億3,015万円となり、前年度と比較すると、61億7,940万円増加した。
- ・ 増加要因としては、学校給食センター等整備事業の増加などにより教育費が97.3%増加したこと、こども園整備事業などにより民生費が4.6%増加したことなどがある。
- ・ 一方、減少要因としては、市債の償還などにより公債費が1.1%減少したことなどがある。



目的別費目の概要（主なもの）は、次のとおりです。

- ・ 民生費：福祉や子育てなど
- ・ 公債費：市役所の借金返済金
- ・ 総務費：まちづくりや戸籍など
- ・ 教育費：学校やスポーツなど
- ・ 衛生費：健康やごみ処理など
- ・ 土木費：道路や公園など
- ・ 消防費：消防や防災など
- ・ 商工費：観光や商業など

一般会計の歳出（目的別）の推移



※端数処理の関係で合計等と一致しない場合があります。

平成20年度と比べて令和7年度の民生費は高齢化の進行や子育て施策の充実などを受けて約122億円の増となっています。一方、公債費は約36.5億円の減となっています。なお、R7公債費のうち約24億円は過去の借金の借換に伴うもので、それを差し引くと公債費は約30.7億円になります。



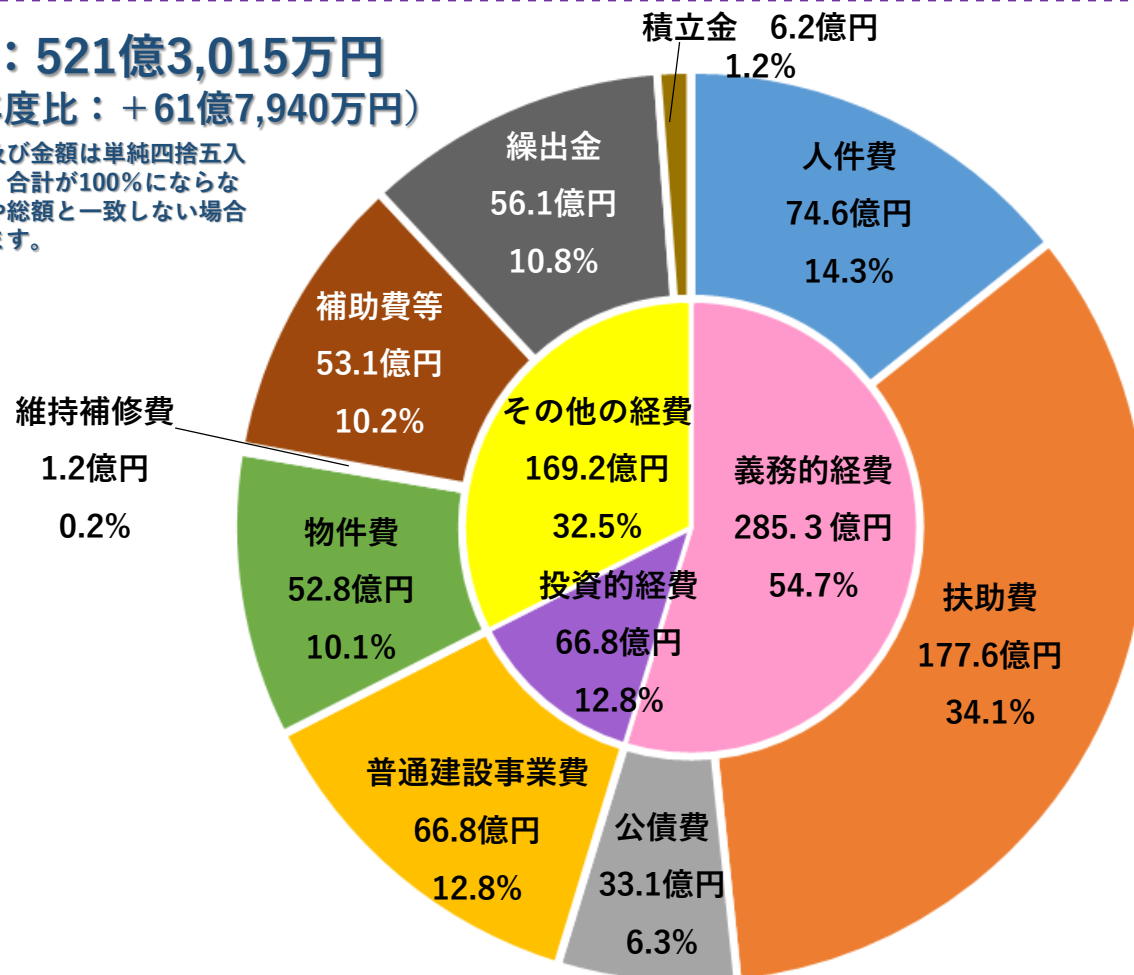
最近では、福祉や子育てなどにかかる費用が増加し、市役所の借金返済に充てるお金が減少したんだね。



一般会計歳出（性質別）内訳（令和7年度決算）

総額：521億3,015万円
（前年度比：+61億7,940万円）

※構成比及び金額は単純四捨五入のため、合計が100%にならない場合や総額と一致しない場合があります。



性質別経費は、大きく分けて「義務的経費」、「投資的経費」、「その他の経費」の3つに分けられます。

このうち、制度的に支出が義務付けられている「義務的経費」の割合が高いほど、財政の柔軟性を欠き、財政健全化が図られにくいとされています。

令和7年度歳出決算（性質別）の特徴

- ・義務的経費では人件費・扶助費が増加傾向であり、令和7年度では物価高騰対応重点支援給付金等の減少があったが、一方で児童手当等が大幅に増加となったことにより扶助費が増加した。また、投資的経費では学校給食センター等整備事業により普通建設事業費が大幅に増加となった。
- ・この結果、歳出全体では前年度より61億7,940万円の増加となった。普通建設事業費の一時的な大幅増により義務的経費の割合としては5.4%低くなったが、義務的経費の総額としては人件費・扶助費の増加により9.1億円増加しており、財政の硬直化は進行傾向にある。

性質別費目の概要は、次のとおりだよ。

- ・人件費：職員の給料、退職手当などに係る経費
- ・扶助費：児童、高齢者、障害者に対する支援に係る経費
- ・公債費：市役所の借金の返済に係る経費
- ・普通建設事業費：道路、学校などの施設の建設に係る経費
- ・災害復旧事業費：災害で被害を受けた施設の復旧に係る経費
- ・物件費：施設管理等の委託料や消耗品、備品等に係る経費
- ・維持補修費：施設の維持補修に係る経費
- ・補助費等：一部事務組合や公営企業等に対する補助に係る経費
- ・繰出金：国保、介護などの特別会計への仕送りに係る経費
- ・積立金：基金（市役所の貯金）への積み立てに係る経費



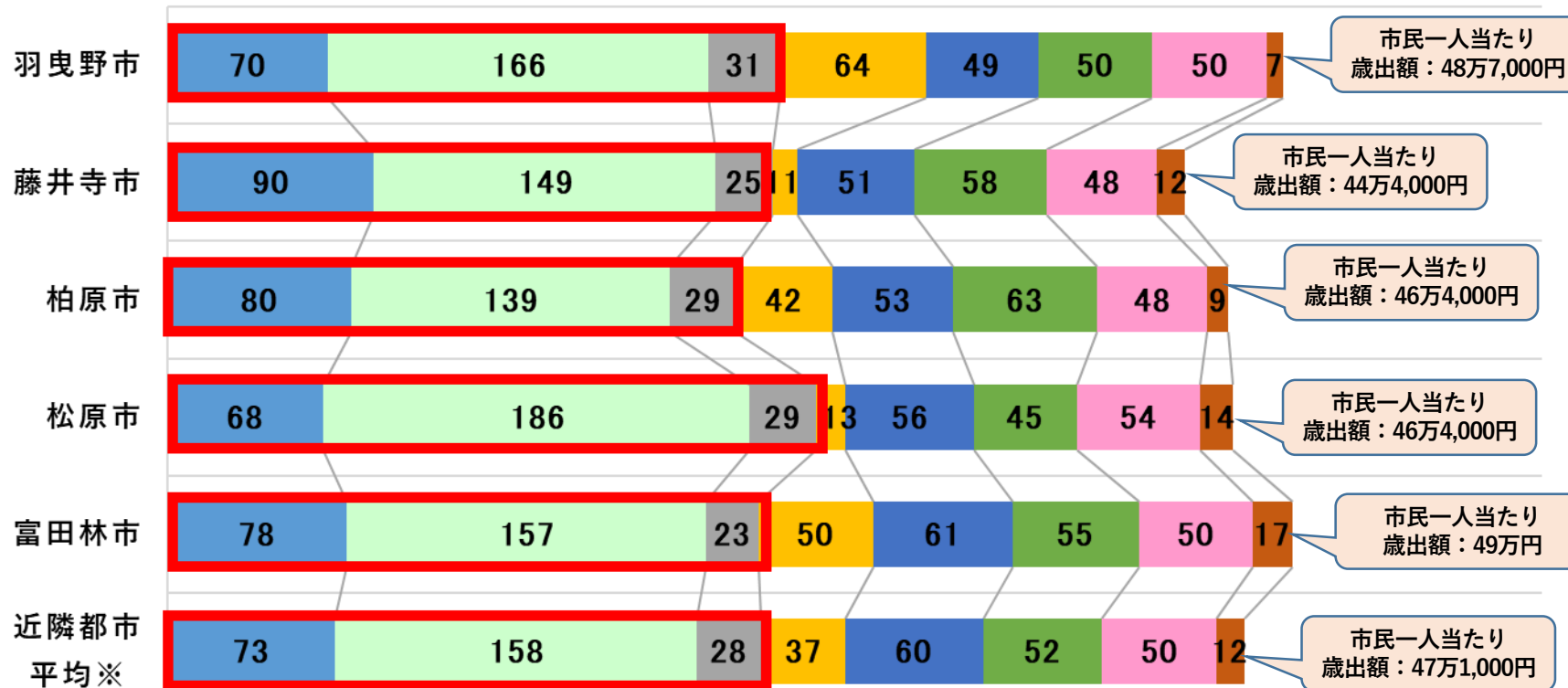
市民一人当たりの歳出（性質別） 隣接市・近隣都市平均との比較について

市民一人当たり歳出比較表（令和7年度決算・普通会計／政令市除く）

 は、義務的経費

単位：千円

■人件費 ■扶助費 ■公債費 ■普通建設事業費等 ■物件費 ■補助費等 ■繰出金 ■その他



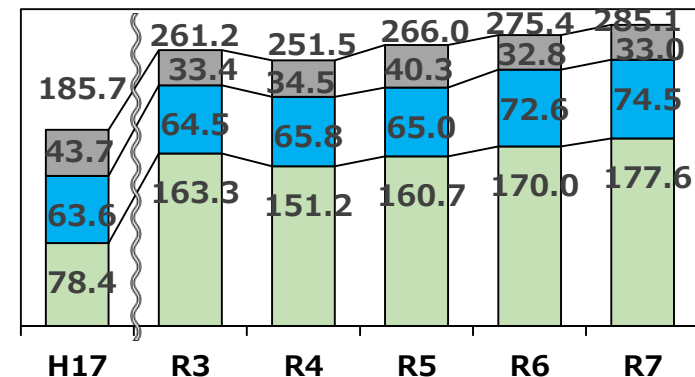
※端数処理の関係で合計等と一致しない場合があります。

※近隣都市平均は隣接市に河内長野市と大阪狭山市を加えた7市の加重平均です。



羽曳野市／義務的経費の推移（普通会計）

■扶助費 ■人件費 ■公債費 単位：億円



羽曳野市は義務的経費の割合が高く、その中でも「扶助費」の割合が高いね。最近では「人件費」と「扶助費」が増加し、「公債費」が減少してるみたい。どうすれば少しでも義務的経費を抑えることができるかな～？

歳出総額に占める義務的経費の割合（普通会計）

近隣都市平均：55.1%

羽曳野市：54.8%

（近隣都市7市中4位）

（この割合が高いほど財政健全化がしにくい）

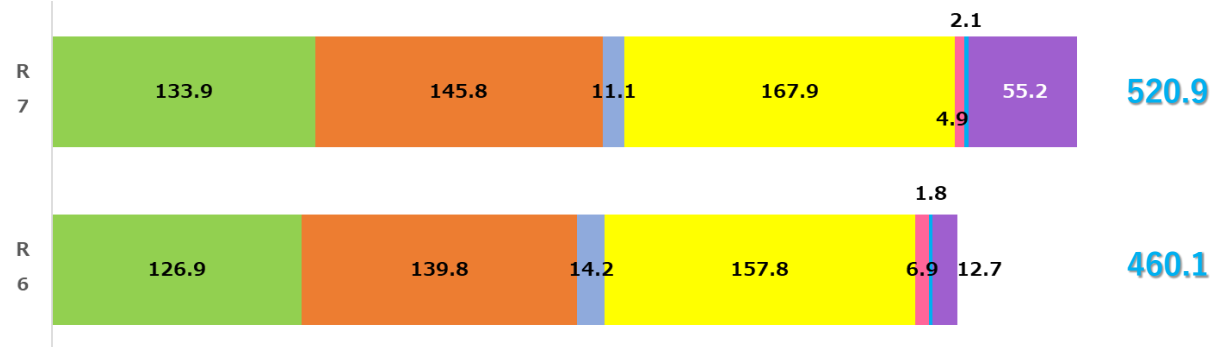




羽曳野市の家計簿はどのようなになっているのかな。どのような特徴があるか一緒に見てみよう。

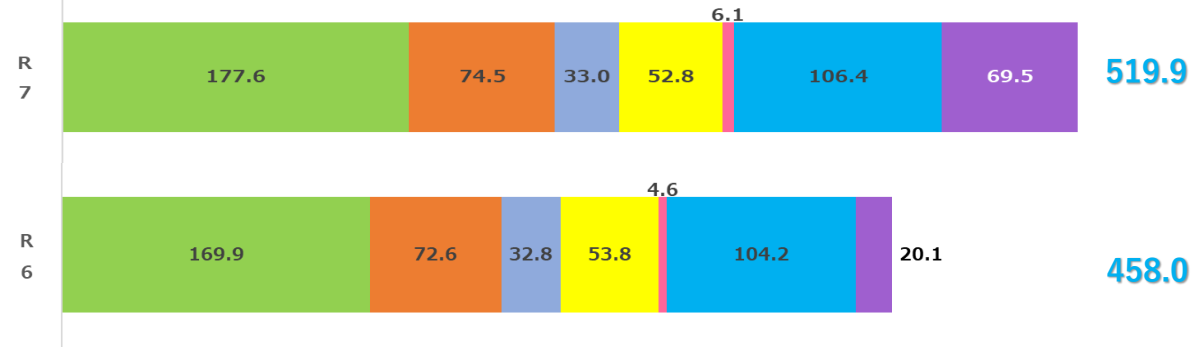
<収入> (普通会計)

(単位：億円)



<支出> (普通会計)

(単位：億円)



家計簿の項目	歳入科目	説明
給与（基本給）	地方税	市民から納められる税金
給与（手当・ボーナス）	地方交付税、譲与税など	税金の不足を補うために国から配分されるお金など
パート収入	使用料・手数料、寄附金など	施設の使用料や行政サービスの利用料、ふるさと寄附金など
親からの援助	国庫支出金、府支出金	国や大阪府から支払われるお金
貯金引出	繰入金	積み立ててきたお金の取り崩し
繰越金	繰越金	前年度からの繰越金
ローン借入	市債（臨財債(16頁参照)含む）	施設の建設費用などのための借入金

家計簿の項目	歳出科目	説明
医療費・保育料等	扶助費	子どもや障がい者や生活困窮者を支えるためのお金
食費	人件費	職員の人件費
ローン返済	公債費	過去の借入金の返済費用
光熱水費・日用品	物件費	施設の光熱水費、業務委託料、物品の購入費
貯金	積立金	将来に備えて積み立てておくお金
仕送りなど	繰出金・補助費等	国民健康保険や介護保険、下水道などのために負担するお金
家の増改築費	投資的経費	道路などのインフラや学校・体育館などを建設するお金

○収入では、給与（基本給・手当・ボーナス）や親からの援助が増えているね。これは、地方税や地方交付税が増えたことが大きな要因だよ。

この他は学校給食センター等整備のためにローン借入が増えていることが見て取れるね。

○支出では、特に伸びが大きいのが、医療費・保育料等と家の増改築費だね。医療費・保育料等が増えているのは、障害者(児)自立支援給付費等の扶助費が増えたことが要因だよ。また家の増改築費の増加は、学校給食センター等整備により投資的経費が増えたことが要因だよ。



Q 6. 令和7年度に行った主なお仕事を教えて！



令和7年度に行った代表的な仕事を紹介します。

●大阪・関西万博関連事業 【3,137万円】

・大阪・関西万博会場への子どもの無料招待

4歳から高校生までを対象とした万博への無料招待を実施。また、大阪府が行う府内小・中学校等の児童・生徒を対象とした招待事業について、それに伴う交通費の全額の助成を実施。



●（仮称）第3こども園整備事業 【7億7,020万円】

既存の3つの幼稚園と1つの保育園を統合する（仮称）第3こども園の整備工事を実施。（令和8年度開園の現古市こども園）



●学校給食にかかる整備 【42億2,588万円】

・学校給食センター等複合施設整備事業

青少年児童センターと一体的な整備を行う学校給食センターの新築移転整備工事を実施。

・中学校給食の全員喫食に向けた配膳室整備事業

令和7年度2学期からの全員喫食のための配膳室の整備を実施。



●地域包括支援センター拠点及び認知症初期集中支援チームの配置拡充 【3,172万円】

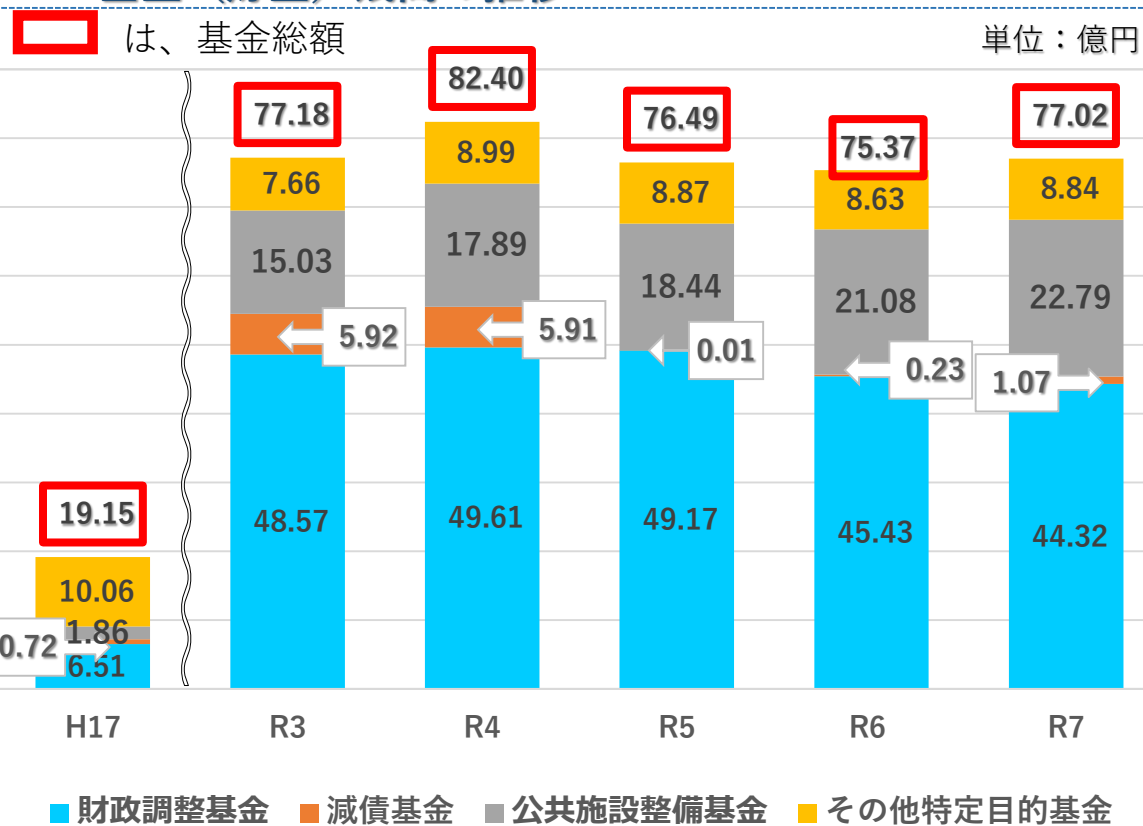
- ・地域包括支援センターの開設（東園域）
東園域において民間事業者による地域包括支援センターを開設。
- ・認知症初期集中支援チーム体制強化
中・東園域の認知症サポート医の協力のもと、市内3園域それぞれに認知症初期集中支援チームを配置。



Q 7. 羽曳野市にはどれくらい貯金があるの？

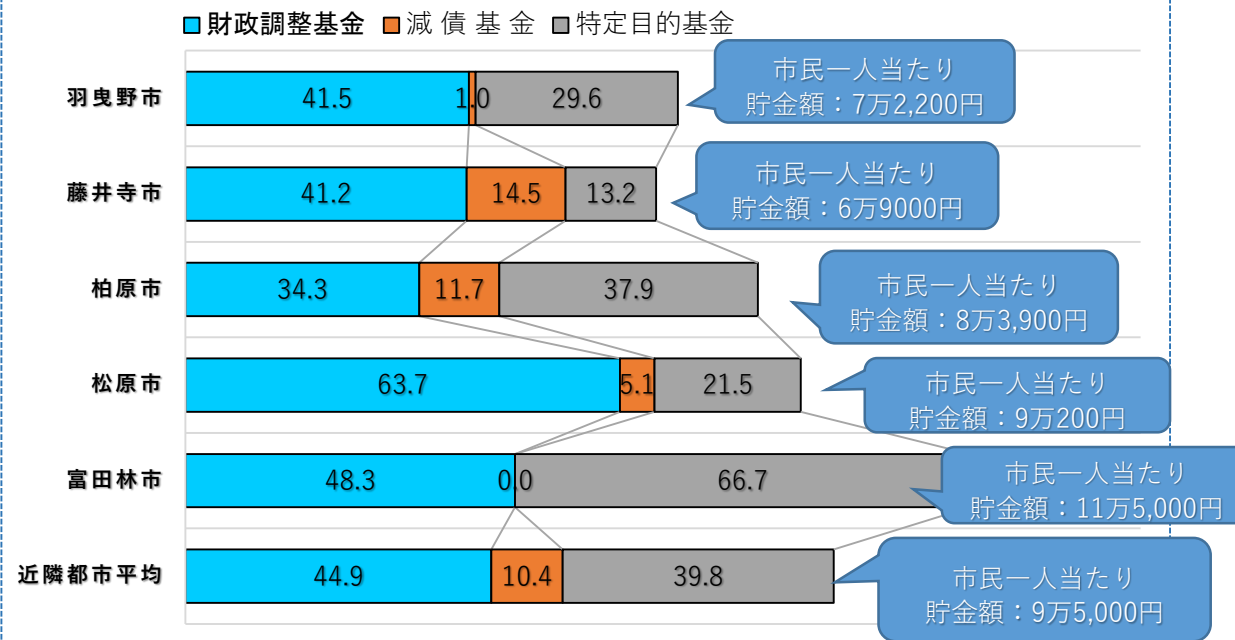


基金（貯金）残高の推移



(参考) 市民一人当たりの基金残高 隣接市・近隣都市平均との比較表
(令和7年度決算／政令市除く)

単位：千円



※この表上は「公共施設整備基金」は「特定目的基金」の中に含まれています。

- 財政調整基金：年度間の収支のデコボコを調整するための貯金
- 減債基金：市債の返済に備えて積み立てる貯金
- 公共施設整備基金：公共施設の整備や改修に充てるための貯金
- その他特定目的基金：福祉、教育、まちづくりなど、特定の目的のために積み立てられる貯金

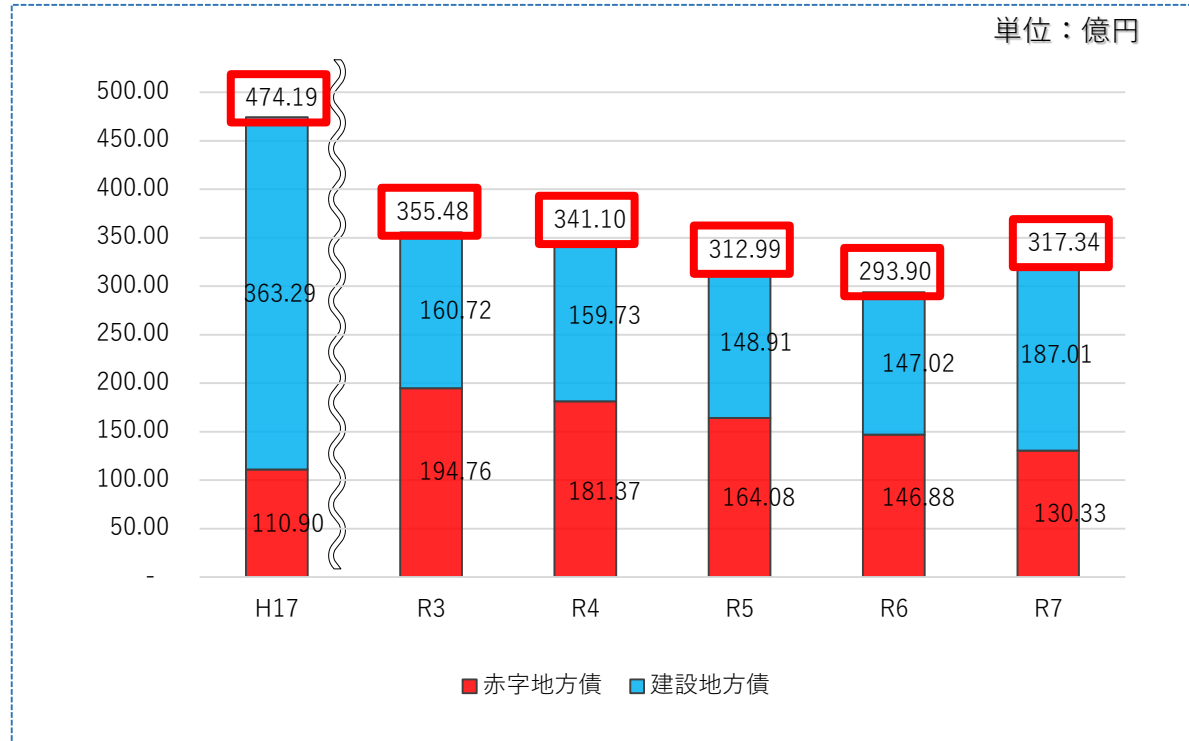


財政調整基金は、実質収支を黒字とするための取崩等のために最近では減少傾向にあるんだ。一方で公共施設整備基金は、庁舎等整備の際に市債の発行を抑制するための財源として、積立を行っているので増加しているよ。

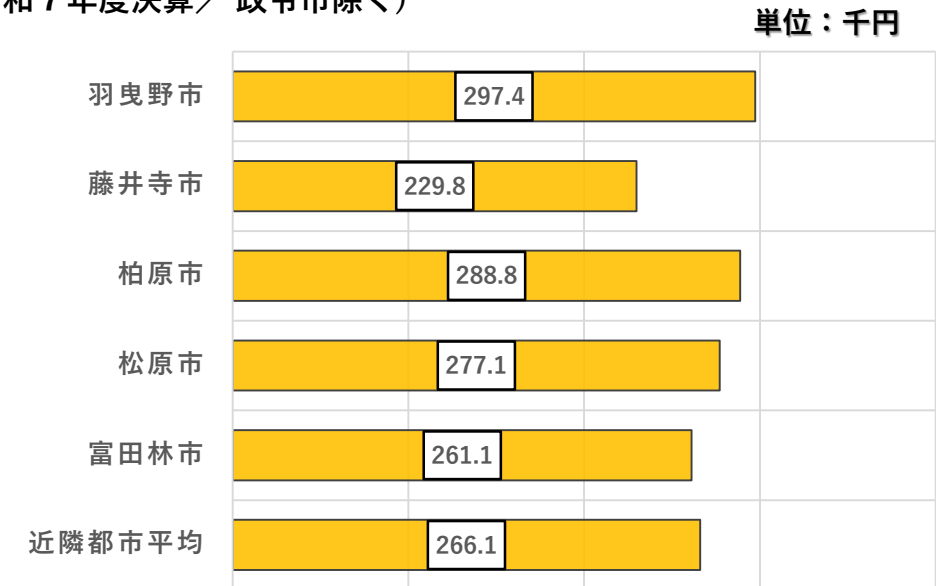
Q 8. 羽曳野市にはどれくらい借金があるの？



市債（借金）【普通会計】残高の推移



(参考) 市民一人当たりの市債残高 隣接市・近隣都市平均との比較表
(令和7年度決算／政令市除く)



は、
借金総額



- 赤字地方債：臨時財政対策債*、退職手当債等をいう。
 - 建設地方債：道路や公共施設を建設するために借りる借金。市債を借り、その施設の耐用年数の期間に渡って借金返済をすることで、その施設を使用する人たちの世代間の公平性を確保する。
- ※臨時財政対策債：国が地方に支払うべき地方交付税の財源が不足しているため、地方自治体に交付税の代わりに発行させる赤字地方債。後年度その元利償還金の全額に相当する額が地方交付税としてもらえる。



市債（借金）残高は、その年の新規借入額を原則その年の元金償還額以下とするような運用をしているため、特に建設地方債は着実に減少しているね。ただし、令和7年度は学校給食センター等整備事業により増加したよ。
国の財源不足による臨財債の残高も高い水準にあり、1,300兆円を超える国の借金残高のことを考えると、市の自主財源を多くして、少しでも臨財債の借入額を減らす努力が必要だね。

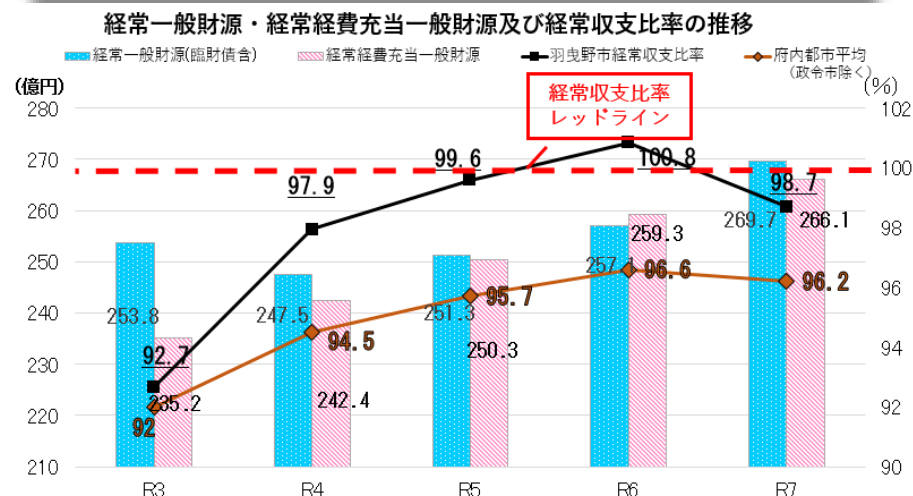


Q 9. 羽曳野市の財政状況は大丈夫なの？



市役所の財政状況は「経常収支比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」などの財政指標で診断することができます。

経常収支比率の推移



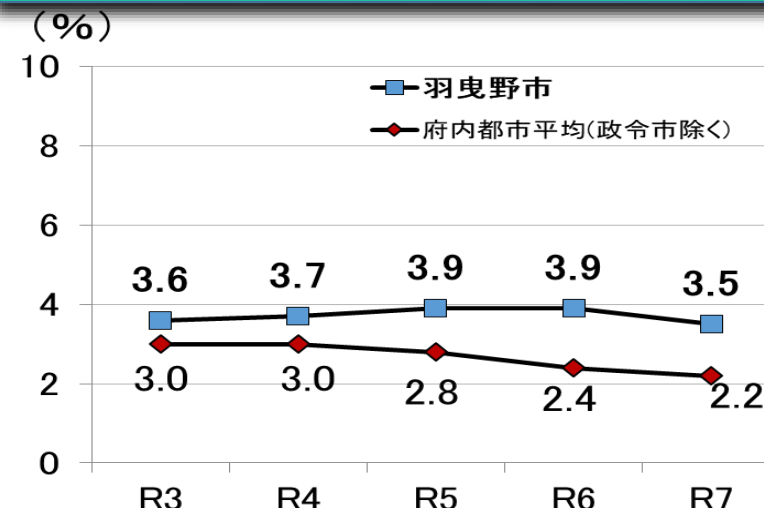
令和7年度の経常収支比率は、98.7%（前年度比▲2.1%）となりました。

これは歳出が増加したものの、それ以上に地方交付税、市税などの歳入が増加したことがあげられます。ただ、経常収支比率は依然として高い比率のため、引き続き経費削減に努める必要があります。

経常収支比率とは （※低い方が良い）

地方公共団体の財政の弾力性（自由度）を判断するための指標です。市税や地方交付税など毎年経常的に入ってくる使い道が決まっていない自由に使えるお金が、人件費、扶助費、公債費など毎年経常にかかる経費にどれだけ充てられているかを示します。この比率が100%を超えると、経常的な収入では経常的な支出をまかなえていないことを表します。

実質公債費比率の推移



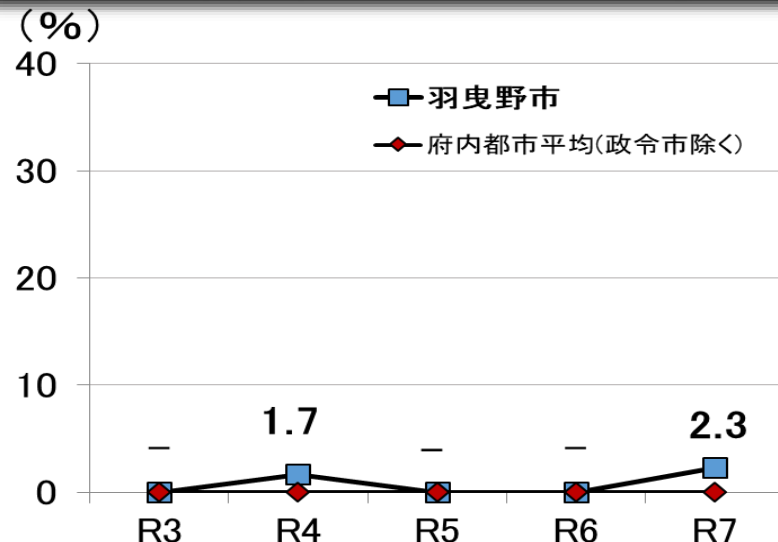
令和7年度の実質公債費比率は、3.5%（前年度比▲0.4%）となりました。

近年は横ばい傾向であり、府内都市平均との比較では依然高い水準となっていますが、問題となるような数値ではありません。ただし、今後も財政健全化計画に基づき新たな借入を抑制しつつ、自主財源の確保に努めていく必要があります。

実質公債費比率とは （※低い方が良い）

地方公共団体の借金返済額の負担の大きさを表はかる指標です。年間の収入の規模に占める年間の借金返済額の割合を表します。この比率が18%を超えると新たに借金をするのに大阪府の許可が必要となります。

将来負担比率の推移



※将来負担額を充当可能財源等が上回っている年度は「-」で示しています。

令和7年度は将来負担額よりも充当可能財源等が下回っていたため算定され、2.3%となりました。近年は減少傾向でありましたが、令和7年度は学校給食センター等整備事業の実施等が要因となり、増加しました。

将来負担比率とは (※低い方がよい)

地方公共団体が将来支払うべきお金の大きさをはかる指標です。
年間の収入の規模に対する一般会計の借金残高や下水道事業等への借金返済のための補助金の将来見込み額など、市役所が将来に支払わなければならないお金の割合を表します。この比率が350%を超えると国や大阪府の管理の下、「財政健全化計画」を作成し、市民サービスを抑えるなどをして財政の健全化を図ることになります。



借金の返済については、これまでの取組みの成果が現れているね。

羽曳野市の財政状況について

- 平成18年度以来18年連続黒字を確保しているが、令和7年度は財政調整基金（貯金）の取り崩しをしなければ赤字に陥る可能性もあった。これで財政調整基金（貯金）の取り崩しは4年連続となり、収支の改善を図る取り組みを進める必要がある。
- 経常収支比率は前年度よりは改善したが、依然として高い比率となっており、今後も金利上昇等に伴う公債費の増加が見込まれるため、財政の硬直化について注視が必要である。
- 人口減少等による市税収入の減少が見込まれる一方で、市役所本庁舎や給食センターの建替をはじめとした公共施設等の更新に多額の費用を要することから、公共施設等の集約化・長寿命化を行うとともに、事業の見直し、自主財源の確保などを集中的に行う必要がある。



このほかにも、羽曳野市の資産や負債といったストックに関する情報などについては、「地方公会計制度に基づく財務書類」で分析しているよ。

【地方公会計制度に基づく財務書類については、こちらのページをご覧ください。】

次のページでは、羽曳野市のこれからの財政収支の見通しを見てみよう。

羽曳野市の今後の財政収支見通し

羽曳野市／普通会計 中期財政収支見通し

(単位：百万円)

	R 8	R 9	R 1 0	R 1 1	R 1 2
市税	13,738	13,885	13,982	14,144	14,200
地方交付税（普通・特別）	10,502	10,362	10,546	10,353	10,363
その他	25,066	25,575	26,824	29,188	25,868
歳 入 合 計 (A)	49,306	49,822	51,352	53,685	50,431
人件費	7,852	7,735	8,065	7,877	8,293
扶助費	17,483	17,833	18,189	18,553	18,924
公債費	3,471	3,393	3,594	3,515	3,512
普通建設事業費	2,053	3,900	4,394	6,555	2,514
その他	19,050	17,805	18,030	18,809	19,452
歳 出 合 計 (B)	49,909	50,666	52,272	55,309	52,695
収 支 (A) － (B)	▲ 603	▲ 844	▲ 920	▲ 1,624	▲ 2,264

※令和8年度以降は収支不足にかかる財政調整基金（貯金）の取り崩しを見込んでいません。



財政調整基金（貯金）を取り崩さないと、赤字はどんどん膨らんでいく見通しだね。原因は、

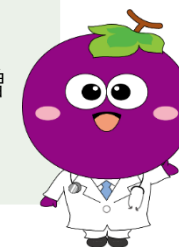
- ① 人口が減ることによって市税が減る
- ② 高齢化などによって扶助費は増加する
- ③ 老朽化した公共施設等の更新にもお金がかかる
などが考えられるよ。



もう一步踏み込んで、一般会計以外の会計の状況も見てみよう！！

(単位：億円)

会計	年度	収入 (収益)	うち 一般会計 繰入金	支出 (費用)	収支	説明
国民健康保険 特別会計	R7	116.2	12.5	116.2	0.1	◇収入は前年比5.4億円の減少。被保険者数の減少及び保険料率のマイナス改定による影響や府支出金（普通交付金）の減少が主な要因。
	R6	121.6	12.8	121.4	0.2	◇支出は前年比5.2億円の減少。被保険者の減少による保険給付費の減少、大阪府へ納付する事業費納付金の減少が主な要因。
	差引	▲5.4	▲0.3	▲5.2	▲0.2	◇収支は、基金を1.4億円取り崩したうえで、768万円の黒字で前年度比0.2億円の減少となっている。
介護保険 特別会計	R7	128.1	19.3	124.4	3.7	◇収入は前年比4.8億円の増加。保険給付費が増加したことに伴う国・府負担金や繰越金の増加によるもの。
	R6	123.3	19.1	120.9	2.4	◇支出は前年度比3.5億円の増加。保険給付費の増加が主な要因。
	差引	+ 4.8	+ 0.2	+ 3.5	1.3	◇収支は3.7億円の黒字で前年比1.3億円の増加となっている。
後期高齢者医療 特別会計	R7	24.8	4.7	24.0	0.8	◇収入は前年比1.1億円の増加。保険料率の改定に加え、被保険者数の増加により後期高齢者医療保険料が増加したことが主な要因。
	R6	23.7	4.7	22.9	0.8	◇支出は前年比1.1億円の増加。後期高齢者医療保険料の収入が増えたことなどにより後期高齢者医療広域連合納付金が増加したことが主な要因。
	差引	+ 1.1	—	+ 1.1	—	◇収支は0.8億円の黒字で前年と同額となっている。
と畜場 特別会計	R7	2.2	1.0	2.2	—	◇収入は前年比0.3億円の増加。繰入金が減少したが、施設改修工事の実施に伴う市債が増加したことが主な要因。
	R6	1.9	0.7	1.9	—	◇支出は前年比0.3億円の増加。改修工事費、機器借上料、機械器具購入費が増加したことが主な要因。
	差引	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.3	—	◇収支は前年と同様0億円で収支均衡となっている。



(単位：億円)



会計	年度	収入 (収益)	うち 一般会計 繰入金	支出 (費用)	収支	説明
水道事業会計	R7	22.1	1.8	20.3	1.8	◇収益は前年比0.4億円の減少。物価高騰対策として実施した半年間の水道料金（基本料金）の減免に伴う、給水収益の減少が主な要因である。 ◇費用は前年比0.3億円の増加。配水及び給水費等の減少があったものの業務費等が増加したことが主な要因となった。 ◇経営の健全性を鑑みると、経常収支比率は100%を超えており、硬直傾向にはあるが、流動資産から流動負債を控除した運転資金は企業債残高を上回っていることから、短期健全性は確保されていると言える。
	R6	22.5	0.3	20.0	2.5	
	差引	▲0.4	1.5	0.3	▲0.7	
下水道事業会計	R7	29.7	5.7	29.6	0.1	◇収益は前年比0.5億円の増加。流域下水道維持管理負担金の増加などによる他会計補助金が0.6億円減少したことが主な要因である。 ◇費用は前年比0.5億円の増加。流域下水道維持管理負担金や管渠費が増加したことなどが主な要因となった。 ◇今後、人口減少による使用料収入の減少や管路や施設の老朽化による更新・維持費用の増加が見込まれ、経営環境は厳しい状況が続くと予想されるが、令和7年度に改定された「羽曳野市下水道事業経営戦略」に基づき、計画的かつ安定的な経営と事業運営を行っていく。
	R6	29.2	5.2	29.1	0.1	
	差引	0.5	0.5	0.5	—	





最後まで読んでいただきありがとうございました。
つぶたんと一緒に見てきましたが、少しでも羽曳野市の財政状況を考えていただけるきっかけになれば幸いです。
また、財政に関することで、お気づきの点や何か良いアイデアがあれば教えてください。
これからも、羽曳野市の行財政運営にご理解とご協力をお願いします。

■ なお、令和7年度決算のより詳細な情報は[こちら](#)のページをご覧ください。



世界遺産と日本遺産のあるまち
HABIKINO CITY



羽曳野市の財政状況

〈令和7年度決算〉

羽曳野市総務部財政管理課

Tel : 072-947-3807

Mail : zaisei@city.habikino.lg.jp